

## 研究成果要旨

### 研究テーマ

実習指導者研修会を受講した看護師の実習指導者としての成長

### 研究組織

研究（代表）者：江本リナ

共同研究者：平成 30 年 3 月に交付を受けた時点より研究メンバーの就職先や部署異動があり、研究メンバーの任期を添える。

日本赤十字看護大学・教授・三浦英恵      日本赤十字看護大学・講師・古城門靖子  
日本赤十字看護大学・講師・清田明美      日本赤十字看護大学・講師・千葉邦子  
日本赤十字看護大学・講師・住谷ゆかり      日本赤十字看護大学・助教・藤田恵理子  
日本赤十字看護大学・助教・工藤有希      日本赤十字看護大学・助教・細井美佐子  
日本赤十字看護大学・助教・鶴巻香奈子      日本赤十字看護大学・助教・神谷美帆  
日本赤十字社医療センター・看護副部長・中根直子  
葛飾赤十字産院・看護副部長・川岸真由美  
日本赤十字社医療センター・看護師長・池田圭子  
武蔵野赤十字病院・看護師長・末永裕代

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

日本赤十字看護大学・教授・岡田彩子      日本赤十字看護大学・講師・中村滋子  
日本赤十字看護大学・助教・原あずみ      日本赤十字看護大学・助教・竹山美穂  
日本赤十字看護大学・助教・川端龍人  
大森赤十字病院・看護師長・多田香代子  
横浜市立みなと赤十字病院・看護師長・永井妙子

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

日本赤十字看護大学・准教授・千葉京子      日本赤十字看護大学・准教授・西田朋子  
日本赤十字看護大学・講師・樋口佳栄      日本赤十字看護大学・助教・太田智子  
日本赤十字看護大学・助教・山本由香  
横浜市立みなと赤十字病院・看護師長・上野優美  
大森赤十字病院・看護師長・中村裕子

### キーワード

実習指導者・実習指導者研修会・成長

## 研究報告

### （１）研究の背景・目的

看護学教育において実習は重要な位置づけにあるものの、教育機関の急増や、少子高齢社会、医療事情などにより実習環境は厳しさを増している。そのような現状において、実習ガイドライン（2020）によると大学と実習施設の連携・協働体制や、実習施設の実習指導者等への教育の仕組みづくりが求められている。日本赤十字看護大学と赤十字系実習施設は協働・連携して実習指導者研修会を開催してきた。その研修会プログラムについて調査を行い（本庄他，2013；本庄他，2014）、研修中の受講生の変化や学びから研修プログラムに対する一定の評価は得られたが、研修会がどのような形でキャリアに影響を与えているかは不明瞭であった。そこで本研究は、実習指導者研修会を受講し修了した看護師が、その後実習指導者としてどのように成長するのか、研修会がどのような形でキャリアの発展に影響を与えているか、修了者の視点から、また、受講当時の所蔵施設管理者の視点から、その実態を明らかにすることを目的とした。

### （２）研究方法

質問紙作成から調査まで4つの段階を本研究の枠組みとした。調査対象は、①実習指導者研修会を開始した2013年以降の全受講生、②師長の立場で看護師を実習指導者研修会に派遣した経験がある方および看護学実習を統括する立場にある看護部の方とした。

※上記のとおり調査実施を予定していたが、2020年1月以降国内で新型コロナウイルス感染症が悪化を辿り、調査を予定していた赤十字施設でCOVID-19の受け入れと院内の感染対策や医療体制づくりが急務となった時期に調査を行うことは倫理的に適切ではないと研究チームメンバーで判断し、国内の感染状況と赤十字施設内の医療体制が落ち着くまで調査を延期することとした。

### （３）研究結果

第1段階で調査のねらいを定め、第2段階で文献検討・2名へのヒアリング・共同研究者らの実習指導体験を統合して質問紙内容を検討した。第3段階で質問紙を洗練させ3種類の対象者用の質問紙を確定した。第4段階として具体的な質問紙調査方法と分析方法を検討した。

### （４）考察

本調査は受講者の動向を追うことになり、修了後の受講者がどのような位置づけで仕事を継続しているか、役割が変化しているか、どのようにキャリアを積み重ねていくのかなど、単なる変化の道筋だけではなく経年的な変化とともにより具体的に記述することができることは、本研究の強みであると考えられる。さらに、施設の組織的な動向を追うことにもなり、看護師現任教育の評価にもつながる点において独自性のある調査と考える。

#### (5) 結論

実習指導者研修会を修了した受講生の動向を追う調査によって、受講生のキャリア形成および実習施設の組織的な教育評価につながると考えられた。調査施設での COVID-19 の感染状況が落ち着いた時期を見計らい調査を実施・分析し、実習指導者研修会のプログラムに反映させていくことが今後の課題である。

#### (6) 謝辞

日本赤十字看護大学実習指導者研修会の参加者で本研究に賛同しご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。また、本研究は、「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成（平成 30 年度・平成 31 年度）」により助成を受けて行った。

#### (7) 引用文献

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（2020）. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 第二次報告 看護学実習ガイドライン.

[https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt\\_igaku-000006272\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf)

[閲覧 2020. 6. 15]

本庄恵子他（2013）. 大学と実習施設が協働企画運営する実習指導者研修プログラムの評価. 平成 25 年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」研究成果報告書.

本庄恵子他（2014）. 大学と実習施設が協働企画運営する実習指導者研修プログラムの評価. 大学と実習施設が協働企画運営する実習指導者研修プログラムの評価. 平成 26 年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」研究成果報告書.